

講義科目名称：基礎看護学特講

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎山岸仁美			

授業の目的・概要	看護技術を看護観の表現として位置づけ、看護基本技術を体系化し、その修得過程のシステム化によって実践能力の土台を形成する看護技術学について、看護技術教育の内容と方法を通して吟味し、看護技術学の発展の方向について探究する。
授業計画	<p>1回 オリエンテーション 授業の前提となる基幹概念について確認</p> <p>2-8回 看護技術学の構造を理解する 「病人の看護と健康を守る看護」を精読し、看護技術学の構造とその根拠について検討する。</p> <p>9-15回 看護技術の論理分析能力を高める ・看護技術修得過程の論理構造を抽出する方法について、自己の実践をもとに、データ収集から論理を抽出し構造化するまでの一連のプロセスを辿る。 ・その分析方法を用いて、すぐれた看護技術を創出した看護実践の有用性を明らかにすることに取り組む。</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>1 文献検討を通して看護技術学の構造について考究する。</p> <p>2 看護技術の論理分析能力の修得レベルを高める</p>
評価方法	授業への参加度（60%）、課題レポート（40%）を総合して評価する
教科書	F. ナイチンゲール著、薄井坦子他訳、看護小論集、現代社 その他適宜提示する
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎栗原保子			
		1 Semester	30時間

授業の目的・概要	<p>看護学教育実践そのものを研究対象としてとりあげ、教授-学修過程の分析を通して教育評価能力を高めるとともに、より効果的・効率的な教育方法の開発を目指す。</p> <p>看護観の表現技術である看護技術及び臨地実習の教授-学修過程を、「看護技術論」「看護技術教育論」「臨床実習指導モデル」を活用して分析し、指導論及び教育方法について論じる。また、看護学教育及び生涯教育の分野においては、e-ラーニング等による教育が導入され教育効果を高めている。ここではVOD型看護技術教育支援システムの構築プロセスとその教育実践の構造分析から、システムの開発・課題について考究する。</p>
授業計画	<p>1-3回 【導入・諸理論や概念の概観】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の確認と進め方 ・看護教育に関連する諸理論や概念の分析 <p>4-6回 【「看護技術論」「看護技術教育論」「臨地実習モデル」を活用した教育実践の分析及び文献検討より、教育方法について考察を深める。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先行研究の文献レビュー ・自己の教育実践を、教授-学習過程として再構成する方法を学び、理論を活用した分析に取り組む。 <p>7-9回 【ICTを活用した教育方法の効果及び課題について検討する。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学教育におけるICTを活用した教育実践の文献レビュー ・看護学教育におけるCAI教育の役割を位置づけ、自己の問題意識と関連させて、学習支援システムもしくは学習支援ソフトの開発に向けた方法を探る。 <p>10-15回 課題の明確化 上記の内容、研究の動向をふまえ、新たな教育方法の考案に向けて研究課題の焦点化を進める。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「看護技術論」「看護技術教育論」「臨地実習モデル」を活用した教育実践の分析及び文献検討を通して、教育評価能力を高める。 2. 看護学教育領域における研究の動向や課題を考察することができる。 3. 看護学教育のあり方を探究し続ける姿勢を身につけることができる。
評価方法	授業への参加状況(60%), 課題レポート(40%), により評価する。
教科書	関連文献及び資料等適宜提示する。
参考書・参考文献	薄井坦子：科学的看護論 第3版 日本看護協会出版会 1997. 薄井坦子：Module方式による看護方法実習書 現代社 2004.
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎島内千恵子			
授業の目的・概要	今日、MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）などの薬剤耐性菌は、病院内のみならず市中でも増加し、新型インフルエンザ、ノロウイルス、麻疹・風疹などの感染症の流行も生じ、感染看護学の重要性はますます高まっている。そこで、感染看護の問題点や感染対策の科学的根拠を明らかにし、より効果的で看護実践の場で受け入れやすい感染対策を検討する。また、看護における感染制御に必要な知識を明らかにし、学習者の関心を引き起こし、理解を助けるような教材、実験実習等、効果的な教育方法を検討・開発する。		
授業計画	1回 【学習課題の明確化】 受講者の関心のある課題を出し、学習課題を明確化する 2-9回 【感染制御の問題点および感染対策の科学的根拠の明確化】 感染制御の問題点および感染対策の科学的根拠に関する文献検索・抄読・討論、または実験とその結果の発表・討論 10-15回 【看護における感染制御に必要な知識の明確化教材・教育方法の開発】 感染に関する教科書・参考書・視聴覚教材、本学の人間病態学Ⅱ（感染と免疫）、人間病態学実習のまとめのプリントなどを参考に、検討・討論を行い、看護における感染制御に必要な知識を明確化し、よりよい教材・教育方法の開発する		
授業形態			
到達目標	看護における感染制御に必要な知識を明らかにし、学習者の関心を引き起こし、理解を助けるような教材、実験実習等、効果的な教育方法を検討・開発する。		
評価方法	発表・討論（50％）、レポート（50％）		
教科書			
参考書・参考文献	感染制御領域の国内外の文献 本学の人間病態学Ⅱ（感染と免疫）、人間病態学実習等の教科書・参考書、 その他適宜紹介するが、受講者自身が、自己の課題にそって、海外の文献も含めて、積極的に探すことが求められる		
履修条件			
科目等履修			
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎田中美智子			

授業の目的・概要	人の身体機能を含め、生活は環境に左右される。ストレスの多い環境で健康を維持・増進していくために、環境や生活行動に働きかけることで生じる人の反応を検討し、その反応のメカニズムを明らかにする。これらのことより、生活の中でストレス反応を緩和し、健康維持・増進への方向性を検討する。特に生体リズム、睡眠について探求する。
授業計画	<p>1-2 オリエンテーション、研究課題の位置づけ 講義の進め方 ストレス、生体リズム及び睡眠に関する文献などより、研究課題の位置づけを明確にする</p> <p>3-8 文献レビュー 該当する研究内容に関する文献レビューを行う。</p> <p>9-11 概念モデルの作成 研究デザインと概念モデルについて 取り組む研究課題についての概念モデルを作成する</p> <p>12-13 研究方法の検討 研究方法について記載されている文献をもとに、研究課題を証明していくための最適な研究方法について検討し、明確化する。</p> <p>14-15 研究課題に関する文献レビューのまとめ 研究課題に関して行った文献レビューをもとに、現状、問題点などを整理し、まとめを行う。 文献レビューを報告としてまとめる。</p>
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ストレッサーにより生じたストレス反応から、そのメカニズムについて考察することができる。 2. ストレス反応について、健康維持・増進に向けての緩和方法を探求することができる。 3. 特に、生体リズムや睡眠に対するケアについて検討することができる。
評価方法	講義内の発表内容40%、課題レポート60%
教科書	適宜提示
参考書・参考文献	福原俊一著、臨床研究の道標、iHope international, ストレスや生体リズム、睡眠に関しては別途指定する。
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	自身の研究に積極的に取り組み、主体的に進めていくこと
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年～3年	8	選択
担当教員			
◎山岸仁美			

授業の目的・概要	看護技術についての科学的な理解のもとに、その基本技術修得過程における学生の認識と行動を観察し、事実をもとに再構成できること、技術上達のプロセスをみつめ、その論理構造を抽出できることの訓練を課す。そして実践現場で経験的に獲得されているすぐれた看護技術を見出し、その形成過程における看護師の認識と行動の論理分析を通して、看護技術学体系の発展につながる実証的研究を行う。得られた知見を社会化できるよう論文指導を行う。全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する。
授業計画	<p>1-10回 研究課題の明確化</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題意識に照らして先行研究を検討し、研究課題を明確にする。 <p><ゼミを通して検討を積み重ねる></p> <p>11-30回 研究計画所の作成と研究倫理審査</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護学の発達段階に照らして研究目的を焦点化する。 研究計画を完成させる。 研究倫理審査を受ける。 豊かな研究データが得られるための研鑽を積み重ねる。 <p><ゼミでの討議を積み重ねる></p> <p>31-100回 研究の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究計画にそって、データの収集・分析を行う 論文をまとめ、学会発表および学術雑誌への投稿を行う 中間報告書を作成する <p>101-120回 学位論文の作成・学位論文審査</p> <ul style="list-style-type: none"> 学位論文を執筆し、予備審査を受け、論文の加筆・修正をおこなう。 学位論文本審査を受ける。
授業形態	演習・研究
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 人々の健康問題の解決をめざし、専門領域において必要性の高い研究課題を見出すことができる。 研究課題を解決するために、科学的・論理的思考に基づいて自律して研究プロセスを遂行し、論文を完成できる。 看護学研究者・実践者としてふさわしい学問する態度を身につけることができる。 看護学研究者・実践者としてふさわしい倫理的態度を身につけることができる。 リーダーシップを身につけ、学際的チームの中で貢献できる。 学問および卓越した実践を通して社会的貢献ができる。
評価方法	文献検討(10%)、研究計画(10%)、研究方法の的確さ(10%)、最終論文(70%)
教科書	適時提示する
参考書・参考文献	適宜提示する
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：基礎看護学特別研究（看護学教育方法開発論） 授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～3年	8	選択
担当教員			
◎栗原保子			

授業の目的・概要	看護学教育の教授—学修過程を分析し、到達目標の修得レベルを向上させるために必要な教育方法の考案・開発を推進し、汎用可能な教育方法の構築をめざす。得られた知見を社会化できるよう論文指導を行う。全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する。		
授業計画	1-10回	研究課題に関する文献レビュー及び研究課題の選定 ・研究課題の選定に必要な文献検討 看護学教育領域の研究に関する研究の動向と課題についてとらえる。 ・文献検討やゼミでの討議を通し研究課題を選定する。	
	11-30回	研究計画書の作成 ・研究課題に対するグランドデザインの構築 研究目的の明確化（研究の新規性・独創性、研究の意義を確認） 研究計画の立案（実現可能性・研究の限界・知見の一般化について検討） 研究方法の確認（分析方法などの確認） ・選定した研究課題に関する研究計画書を作成する。 ・研究倫理審査申請書の作成	
	31-100回	研究の実施 ・研究計画に従い、データ収集の実施 ・データ分析 ・分析結果をふまえ、論文執筆	
	101-110回	博士学位論文 執筆 ・研究結果をふまえ、論文の全体構成を考え、博士学位論文を執筆する。 博士学位論文 予備審査 ・博士学位論文審査規準に基づき、予備審査を受ける。該当年度の10月に実施。	
	111-119回	論文修正 ・予備審査で指摘された内容について検討。 ・論文の加筆・修正を行う。	
	120回	博士学位論文 最終試験 ・博士学位論文審査基準に基づき、本審査を受ける。	
授業形態			
到達目標	1. 看護学教育の研究領域に関する研究の動向と課題を言及できる。 2. 看護学教育の研究領域に関する主要な理論について説明できる。 3. 修得した研究技法を基礎とし、看護学の発展に寄与できる研究課題について、研究計画書を作成し、研究倫理審査の承認を得ることができる。 4. 研究を遂行し、学会への発表、論文化などの研究過程を自ら推進するとともに、研究課題に関するさらなる研究を遂行していく能力を修得する。		
評価方法	プレゼンテーションの内容、議論への参加姿勢、研究への取組、関連学会への発表と論文投稿、学位論文の内容によって評価する。		
教科書	なし		
参考書・参考文献	適宜照会する。		
履修条件			
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称：基礎看護特別研究（感染看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～3年	8	選択
担当教員			
◎島内千恵子			

授業の目的・概要	看護における感染制御上の問題の実態を、文献検討や実践現場での調査によって明らかにし、感染対策を実証的に展開して分析する。得られた成果の汎用化に向けて、視覚的教材研究を深め、看護における感染制御上の責務に応えるための臨床的・教育的体系化をはかり、既存の知見、新たな知見を組織化する。得られた知見を社会化できるよう論文指導を行う。全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する。
授業計画	<p>1セメスター 研究テーマ・研究方法について、文献検討、予備実験等を通して明確にし、研究計画書を作成する。 1セメスター終了時に研究題目、研究計画書を提出</p> <p>2-4セメ 倫理審査申請、研究計画発表、研究実施（データ収集・分析） 2~3セメスター 倫理審査申請、研究計画発表 4セメスター 中間報告書提出</p> <p>5セメスター 論文作成 中間報告</p> <p>6セメスター 博士論文予備審査、論文提出、博士論文審査</p>
授業形態	
到達目標	研究テーマについて十分な文献検討や予備実験を行い、研究計画立案、データ収集・分析、論文作成、発表ができ、自立した研究者としての研究能力を身につける。
評価方法	論文、博士論文審査・最終試験、論文発表会
教科書	
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	不可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1-3年	8	選択
担当教員			
◎田中美智子			
授業の目的・概要	看護を行う上で、健康の維持増進、健康障害の予防、健康の回復、苦痛の緩和は重要な視点である。環境からのストレスがもたらす生体反応について焦点を当て検討していく。なかでも、生体リズム、睡眠がどのように影響を受けるのか、また、生体リズム、睡眠が障害を受けないためにはどのような関わり、支援が有効かなどについて明らかにしていき、健康維持増進に向けての根拠となる睡眠への援助を見出し論文としてまとめる。論文作成の全過程において対象への倫理的配慮ができる。		
授業計画	1-10回 研究課題と研究方法の明確化 先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を明確化する。 毎回、文献レビューを行い、研究計画書を作成していく。 11-16回 研究計画書の完成と研究倫理審査 研究計画書を完成させ、研究倫理審査を受ける。 研究の実施が可能ないように準備を整える。 毎回、研究経過の報告を行う。 17-40回 中間報告書の作成 文献レビューをもとに、取り組む課題についての文献レビューを報告としてまとめ、投稿する。 研究計画にそって、データ収集及び分析を行い、結果を解釈していく。 41-120回 論文の作成・学位論文審査 論文をまとめ、学会発表および学術雑誌への投稿を行う。 研究の最終的なまとめを行い、学位論文審査を受ける。		
授業形態	演習・研究		
到達目標	1. 人々の健康問題の解決を図るために、専門領域に生じている課題を見出すことができる。 2. 見出した研究課題を解決するために、科学的・論理的思考に基づいて独創的な研究活動を主体的に行うことができる。 3. 研究を行う上で、研究者として必要な研究倫理を身に付け、それに基づいて研究を遂行できる。 4. 研究論文を完成させることができる。		
評価方法	文献レビュー10%，研究計画10%，研究手順の的確さ10%，最終論文70%		
教科書	適宜提示		
参考書・参考文献	福原俊一著、臨床研究の道標, iHope international		
履修条件			
科目等履修	否		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子			

授業の目的・概要	生命の連続性を支える看護者の立場から、生命の誕生と健やかな成長に多大な影響を及ぼす健康課題や問題について幅広い視点から理解を深め、今日的課題を踏まえた看護者の支援の方向性及び方法について検討し、研究の方向性を探る。
授業計画	<p>1～10回 ガイダンス / 思春期・性成熟期について理解を深める</p> <p>1. ガイダンス</p> <p>2. 下記の問題について、ゼミ形式で文献講読と討議を織り交ぜながら、様々な角度から思春期・性成熟期の理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思春期・性成熟期の人々の特徴 （現代の社会問題ともリンクさせながら特徴を明らかにしていく） ・ 思春期・性成熟期の健康課題と問題 （様々な角度から現状と課題について検討する） ・ 思春期・性成熟期の看護の現状と方向性 （看護者の支援の現状と課題を明確にしながらか検討する） ・ 思春期・性成熟期の研究の現状と課題 （看護支援に必要な研究と課題を明確にし、実践の可能性を検討する） <p>11～15回 研究課題の文献レビュー</p> <p>1. 研究課題の焦点化 上記について学習を深める中で自己の研究課題の焦点化を図る。</p> <p>2. 研究課題の文献検討 研究課題に関する文献レビューを行い、研究の可能性を探る。 焦点化した研究課題に関して、さらに文献レビューを行い、討議を行う中で、研究の位置づけ、意義、オリジナリティの確認、研究の概念枠組みなどを明確にして、研究の可能性を探る。</p>
授業形態	講義
到達目標	<p>① 思春期や性成熟期にある人々について家族や社会背景など幅広い視点から理解する</p> <p>② 思春期や性成熟期の健康課題や問題について様々な角度から理解を深める。</p> <p>③ 看護者の支援の方向性や方法について考察を深める。</p> <p>④ 自己の研究課題の焦点化を図り、実践の可能性を検討する。</p>
評価方法	授業への参加状況・姿勢（発表・討論）70% レポート提出30%
教科書	随時紹介する
参考書・参考文献	随時紹介する
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	履修者の背景やニーズを踏まえ、履修者と協議して授業内容を変更することがあります。
備考・メッセージ	

講義科目名称：成人老年看護学特講

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎久野暢子、重久加代子			

授業の目的・概要	健康上の問題を抱える成人及び高齢者とその家族が有する課題や問題について幅広い視点から理解を深め、現在の保健・医療・福祉の状況を踏まえたより良い看護を探究する。
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要、授業計画など <p>2-10回 【文献レビュー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題に関する文献レビューを行う。 <p>11-15回 【文献レビューのまとめと研究デザインの検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題に関して行った文献レビューをもとに、現状や問題点などを整理し、まとめを行う。 ・文献レビューで明らかになった内容をもとに、自己の研究課題に適した研究デザインを検討する。
授業形態	講義
到達目標	<p>1 成人・高齢者とその家族が抱える健康課題や健康問題の文献レビューから自己の研究課題を明確にできる。</p> <p>2 自己の研究課題に適した研究デザインを検討できる。</p>
評価方法	講義内の発表内容40%、課題レポート60%
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎平野かよ子			

授業の目的・概要	地域の健康・生活課題や支援課題を生活する人々や関係者と協働する公衆衛生看護の活動方法を理解し、健康を支える社会システムの構築を担う公衆衛生看護の研究方法論を探求する
授業計画	<p>1・3回 【授業オリエンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション、講義の進め方 ・院生間で研究課題の共有 ・公衆衛生看護学の理念、学としての独自性 対象把握、協働した活動方法 <p>4-9回 【文献レビューと研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に関する文献レビュー ・研究課題を追及するための研究方法の検討 <p>10-15回 【研究デザインの検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献レビューから捉えられた各自の研究課題の意義・目的 ・各自の研究の研究デザインの検討 ・研究対象の健康を支援する社会システムの検討
授業形態	講義・演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の理念と活動方法を理解できる。 2. 協働した課題解決の公衆衛生看護活動を理解できる。 3. 研究課題の関連する文献レビューを行い研究方法を探索し、研究デザインを検討する。 4. 各自の研究課題を健康を支える社会システムの構築と関連させることができる。
評価方法	授業への参加状況・プレゼンテーション (50%)、レポート (50%)
教科書	適宜紹介します
参考書・参考文献	適宜紹介します
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	8	選択
担当教員			
◎長鶴美佐子			

授業の目的・概要	生命の連続性を支える看護者の立場から、生命の誕生と健やかな成長に多大な影響を及ぼす健康課題や問題解決のための支援方法開発をねらいとした研究課題に取り組む。研究は適切な倫理的配慮のもとですすめ、成果を論文にまとめることができるよう指導する。
授業計画	<p>I. 研究課題の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献検討を行い、研究課題・方向性を明確にする。 2. 文献検討結果を論文（総説）にまとめ、投稿する。 <p>II. 研究計画の立案と準備</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究目的、目標、研究の概念枠組み、研究方法、倫理的配慮などを明確にし、研究計画を立案する。 （主論文・副論文について、それぞれの位置づけを明確にし研究計画を作成する） 2. 研究計画の発表（発表会の開催） 2. 研究倫理審査委員会への提出 3. 研究フィールドとの開拓と調整 <p>III. データ収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に基づきデータ収集を行う。 <p>IV. データ整理・分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集したデータの整理・分析、分析結果の検討（ゼミ形式：中間報告会） <p>V. 分析結果の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分析結果を研究ゼミや中間報告会で発表し、考察やまとめの方向性について検討 <p>VI. 論文作成</p> <p>論文投稿先の規定に沿って、論文を作成する。</p> <p>VII. 副論文の論文投稿と採択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副論文は学会発表ののち主要学会に投稿する（本論文提出までに学会誌に採択されること） <p>VIII. 論文審査と発表</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 本論文（博士論文）は、予備審査をうける（10月） 2) 予備審査後の修正を行い、本論文（博士論文）として提出する（1月） 3) 博士論文審査をうける（1月） 4) 論文発表会にて発表（2月） 5) 学会への論文投稿（課程終了後1年以内に投稿し採択されること）
授業形態	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学の博士論文としてふさわしい研究テーマの設定ができる。 2. 必要かつ十分な文献レビューを行い研究計画の立案ができる。 3. 研究成果を博士論文にまとめることができる。 4. 博士論文（副論文を含む）の社会化ができる。
評価方法	博士論文の可否
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介
履修条件	母子看護学・助産学特講の単位を取得していること
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1-3年	8	選択
担当教員			
◎平野かよ子			

授業の目的・概要	成人・老年期にある患者及び家族が抱える健康問題への支援方法の開発や支援にかかる政策等に関する研究課題に取り組み、博士論文を作成することを指導する。また、全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する。
授業計画	<p>1回 【ガイダンス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目の概要、授業計画など <p>2-10回 【研究課題と研究デザインの明確化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の研究課題に関連した文献のクリティーク並びに先行研究の総括 ・研究課題と研究目的の明確化 ・研究デザインの選択 <p>11-40回 【研究計画書作成、中間報告書の作成、研究倫理審査の申請】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画書の作成 ・中間報告書の作成、中間報告会の準備と実施 ・研究倫理審査の申請 <p>41-60回 【データ収集及び分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究倫理審査で承認された研究計画に則った研究データの収集と分析 <p>61-120回 【研究論文の作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究論文の作成 ・学会発表や学術雑誌への投稿 ・学位論文審査
授業形態	演習
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人・老年期にある患者や家族の健康に関して、研究として取り組むべき課題を見出すことができる。 2 見出した課題を解決するために、科学的・論理的思考に基づいて独創的な研究活動を主体的に行うことができる。 3 研究者として必要な研究倫理を身に付け、それに基づいて研究を遂行できる。 4 研究論文を完成させることができる。
評価方法	研究論文作成への取り組み30%、研究論文の内容50%、論文審査でのプレゼンテーションと質疑20%
教科書	なし
参考書・参考文献	適宜紹介する
履修条件	
科目等履修	
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

講義科目名称：応用看護特研（公衆衛生看護学）

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1－3年	8	選択
担当教員			
◎平野かよ子、小野美奈子、川原瑞代、中村千穂子、松本憲子			

授業の目的・概要	地域で生活する住民や関係機関が抱える健康・生活関連の課題あるいは支援者の活動に関する課題から、研究課題を設定し、適切な研究方法を用いて取り組み、博士論文を作成することを指導する。また、全過程において対象への倫理的配慮がなされるよう指導する
授業計画	<p>1－2回 ガイダンス 科目のねらい、構成、授業計画 授業スケジュールの決定</p> <p>3－24回 研究課題と研究方法 体系的な文献レビューの実施と研究手法の探索 研究課題と研究目的、研究の新規性の確認 研究方法の選択</p> <p>25－40回 研究計画書と中間報告書の作成、研究倫理審査 研究計画書の作成 中間報告書の作成 研究倫理審査申請書の作成、審査受理</p> <p>41－80回 データおよび情報の収集・分析 研究計画に沿って研究データ・情報の収集と分析</p> <p>81－20回 研究論文の作成及び学位審査 分析結果の考察、研究の新規性・独自性の表出 研究内容の論文化、学会発表及び学術雑誌への投稿 学位論文の作成 学位論文審査</p>
授業形態	演習・研究
到達目標	<p>1 公衆衛生の向上を図るための課題について、地域社会に起きている課題を明確化できる。</p> <p>2 明確化した課題に係る先行研究や諸理論、研究方法を検討し、新規性・独自性のある自らの研究を主体的に追究していくことができる</p> <p>3 研究を行う上で、研究者として必要な研究倫理を身につけ、それに基づいて研究を遂行できる。</p> <p>4 研究論文を完成させることができる。</p>
評価方法	文献検討（10％）、研究計画（10％）、研究手順の的確さ（20％）、最終論文（60％）
教科書	適宜提示する
参考書・参考文献	適宜提示する
履修条件	
科目等履修	否
履修上の留意点	
備考・メッセージ	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1 or 2	2	選択
担当教員			
◎浅野昌充			
		2 Semester	30時間
授業の目的・概要	<p>学的研究及び科学的理論構築のために必要な科学である「弁証法」と「認識論」について、生命科学を題材に学び、対象の論理構造を究明する実力を養成する。</p> <p>ものごとは運動・変化・発展としてある。人類は、自然世界の究明を一つの軸に、その運動・変化・発展を正しくとらえる能力を「弁証法」と呼んで、発展させてきた。しかし、その能力を身に着けるためには、その発展の歴史的順序を、対象に対立を見出す訓練から始まって、正しくたどる必要があるので、「弁証法」のイロハから学習していく。</p> <p>人間を対象とする科学は、人間が、他の動物と一線を画する頭脳活動（＝「心と頭」の働き）を行うように進化した生命体であるとの、しっかりとした理解の上に成り立つものである。ここでは、看護研究の理論基盤となる「科学的認識論」（＝頭脳の科学）を「問いかけの反映」や「観念的二重化」の構造を中心に、「心と頭」の働きの事実から分かっていく。</p>		
授業計画	<p>1-15回 【自然および生命の弁証法と科学的認識論】</p> <p>ここではとくに、自然科学に限らず、あらゆる分野の学問としての科学的方法に不可欠な「弁証法」と「認識論」をその基本から学びながら、受講者の研究などを素材として、方法の基点となる問題の焦点化にかかわる背後の生命観、人間観を探り出し、その是非を問いながら、研究方法に生命科学研究方法を反映させていく。</p> <p>以下、項目（順不同）</p> <p>「事実と論理」、「弁証法」の諸概念・諸法則、「認識論」の諸概念・諸法則、「論理と解釈」、「生命の本質と起源および歴史」、「人類の歴史の流れ」、「学問の歴史」、「生物学の諸概念・諸法則」、「科学的人間論」</p>		
授業形態	講義		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弁証法の諸概念・諸法則を事実捉えることができる。 2. 人間の頭脳活動（＝認識）が「問いかけの反映である」と言われる構造を自分の認識的事実で説ける。 3. 人間生命の特質を踏まえ、所謂「のぼりおり」の過程として研究を展開できる。 		
評価方法	講義・ゼミへの取り組み		
教科書	ゼミの時に指示		
参考書・参考文献	ゼミの時に指示		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			

講義科目名称：社会科学研究方法論

授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2	選択
担当教員			
◎梶山委都子			
			30時間

授業の目的・概要	<p>実際の研究論文にふれることによって社会科学の対象とその特質について学び、その研究方法を理解する。 その上で、社会科学研究方法の限界と可能性、看護学研究方法との共通点と相異点を検討し、社会科学 研究の結果を看護学や看護実践へ適用する可能性について考察する。</p>
授業計画	<p>1回 【社会科学とは何か、なぜその研究方法を学ぶのか】 参加者の研究経験を通して理解している内容を提示しあい、学習目的と目標を確認する</p> <p>2-13回 【社会科学を研究する意味、その課題と可能性について考える】 看護を対象とした社会科学研究論文を通して、社会科学が対象とするものやその特質を体験的に 理解する 看護学研究との共通点や相違点を検討し、看護学や看護実践への適用可能性を吟味する 社会科学と看護学の関係について考える 社会科学研究の課題と可能性について考える</p> <p>14-15回 【まとめ】 ゼミを通して学んだことを協同でふり返り、各自の学びを確認してレポートにまとめる 【対照実験の組み方】</p>
授業形態	講義
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会科学とは何か理解する。 2. 社会科学を研究する意味について考える。 3. 社会科学研究の課題と可能性について考える。
評価方法	ゼミへの参加度（40%）とレポート（60%）を総合して評価する
教科書	梶山委都子「実践から学ぶ看護職」鳳書房（図書館蔵書） 猪口孝「社会科学入門」中公新書、高島善哉「社会科学入門」岩波新書 その他、随時資料を提示
参考書・参考文献	
履修条件	
科目等履修	可
履修上の留意点	
備考・メッセージ	原則として「教える」講義はしない。参考書・資料を入手し、おおよその内容を把握したうえで参加する。開講日は受講生と相談の上、決定する。

講義科目名称：アカデミックライティング

授業コード：

英文科目名称：Academic writing

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
1 Semester	1年	2	選択
担当教員			
◎川北直子			
授業の目的・概要	受講生自身の研究内容を用いて、英文抄録を書けるようになるための演習、国際学会でのポスター発表・口頭発表の提示資料・発表原稿を書く演習を行う。 演習を通して英語での研究発表のスタイルや必要な表現を学ぶ。		
授業計画	1-3 Writing abstract Learning how to write abstract using participants' previous thesis or research papers. 4-8 Poster presentation Learning how to prepare poster presentation using participant's previous research papers (or ongoing research). 9-15 Oral presentation Learning how to prepare slide/oral presentation using participant's previous (or ongoing) research.		
授業形態			
到達目標	1) 英文抄録が書けるようになる 2) 自己の研究をポスターにまとめられる 3) 自己の研究を口頭発表するためにスライド・原稿が書ける		
評価方法	成果物 (Abstract: 20%, Poster: 20%, Slide: 20%, Oral presentation: 20%) 授業への取り組み: 20%		
教科書			
参考書・参考文献	追って指示する		
履修条件			
科目等履修	可		
履修上の留意点			
備考・メッセージ			